

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 4 部門第 1 区分
 【発行日】平成 17 年 5 月 26 日 (2005.5.26)

【公開番号】特開 2000-204616 (P2000-204616A)
 【公開日】平成 12 年 7 月 25 日 (2000.7.25)
 【出願番号】特願 平 11-11110
 【国際特許分類第 7 版】

E 0 3 C 1/12

F 1 6 L 3/00

F 1 6 L 5/00

【F I】

E 0 3 C 1/12 E

F 1 6 L 3/00 H

F 1 6 L 5/00 A

F 1 6 L 5/00 N

【手続補正書】
 【提出日】平成 16 年 7 月 26 日 (2004.7.26)
 【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】特許請求の範囲
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【特許請求の範囲】
 【請求項 1】

少なくとも 1 個の横枝管継手口を有してスラブ上に突出されるとともに、上部に立て管を接続する立て管継手部を有して形成され、

前記立て管継手部の外周面に環状つば部が形成され、

前記環状つば部の下面が、前記スラブ上に配設される支持部材に支持可能に形成されていることを特徴とする集合管継手。

【請求項 2】

少なくとも 1 個の横枝管継手口を有するとともに、上部に立て管を接続する立て管継手部を有して形成され、

前記立て管継手部の外周面に、少なくとも 2 個の耳状片が、管軸に対して相対する位置に、水平方向に突起するように形成されることを特徴とする集合管継手。

【請求項 3】

前記耳状片が、前記横枝管継手口の軸心方向に向かって形成されていることを特徴とする請求項 2 記載の集合管継手。

【請求項 4】

少なくとも 1 個の横枝管継手口を有するとともに、上部に立て管を接続する立て管継手部を有して形成され、前記立て管継手部の外周面に環状つば部が形成され、

前記環状つば部あるいは前記環状つば部の下側に複数の耳状片を有して形成されることを特徴とする集合管継手。

【請求項 5】

少なくとも 1 個の横枝管継手口を有してスラブ上に突出されるとともに、上部に立て管を接続する立て管継手部を有して形成され、

前記立て管継手部の外周面に、少なくとも 2 個の耳状片が、管軸に対して相対する位置に、水平方向に突起するように形成され、

前記スラブ上に配設される支持具が、前記耳状片の下面を当接するように支持すること

を特徴とする集合管継手の支持方法。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0005

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0005】

【課題を解決するための手段】

この発明にかかわる集合管継手では、上記の課題を解決するために以下のように構成するものである。即ち、

少なくとも1個の横枝管継手口を有してスラブ上に突出されるとともに、上部に立て管を接続する立て管継手部を有して形成され、

前記立て管継手部の外周面に環状つば部が形成され、

前記環状つば部の下面が、前記スラブ上に配設される支持部材に支持可能に形成されていることを特徴とするものである。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0006

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0006】

また、この集合管継手は、少なくとも1個の横枝管継手口を有するとともに、上部に立て管を接続する立て管継手部を有して形成され、

前記立て管継手部の外周面に、少なくとも2個の耳状片が、管軸に対して相対する位置に、水平方向に突起するように形成されることを特徴とするものである。

また、前記耳状片が、前記横枝管継手口の軸心方向に向かって形成されていればよい。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0007】

また、本発明の集合管継手は、少なくとも1個の横枝管継手口を有するとともに、上部に立て管を接続する立て管継手部を有して形成され、前記立て管継手部の外周面に環状つば部が形成され、

前記環状つば部あるいは前記環状つば部の下側に複数の耳状片を有して形成されることを特徴とするものである。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0008

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0008】

また、本発明にかかわる集合管継手の支持方法は、少なくとも1個の横枝管継手口を有してスラブ上に突出されるとともに、上部に立て管を接続する立て管継手部を有して形成され、

前記立て管継手部の外周面に、少なくとも2個の耳状片が、管軸に対して相対する位置に、水平方向に突起するように形成され、

前記スラブ上に配設される支持具が、前記耳状片の下面を当接するように支持することを特徴とするものである。